

「公共建築の日」2021 フォトコンテスト

受賞作品集

「公共建築の日」及び「公共建築月間」北海道地方実行委員会
一般社団法人公共建築協会 北海道地区事務局

「公共建築の日」2021 フォトコンテスト

審査結果報告

本年のフォトコンテストは、2021（令和3）年7月7日に応募要項を発表し、応募部門を「デジタルカメラ部門」、「携帯・スマホ部門」の2部門で、令和2年10月以降に撮影した作品を対象に、「公共建築と風景、街並み」をテーマに同年7月7日から10月11日まで応募を受け付けました。

その結果、新型コロナ禍での人流抑制などの措置が講じられるなか、2部門とも昨年の応募総数を上回る応募になりました。多数の応募を頂いたことにお礼申し上げます。

「デジタルカメラ部門」 99点（令和2年：86点）

「携帯・スマホ部門」 68点（令和2年：24点）

令和3年12月8日に開催された審査委員会において、厳正なる審査の結果、次の作品が選考されました。なお、事務局の事情により審査スケジュールが変更になったことを心よりお詫び申し上げます。来年のフォトコンテストに引き続き多数の応募を賜ることを実行委員会一同祈念しております。

「公共建築の日」及び「公共建築月間」北海道地方実行委員会
（事務局 一般社団法人公共建築協会北海道地区事務局）

● 受賞作品一覧

【デジタルカメラ部門】			
賞	題名	対象公共建築	受賞者
グランプリ	「秋のウポポイ」	ウポポイ（民族共生象徴空間）	長友 逸郎（札幌市）
準グランプリ	「写真に残しておきたい場所」	北海道百年記念塔	山内 佳子（札幌市）
準グランプリ	「駅に着いたよ」	札幌駅	朝日 均（札幌市）
佳作	「淡色世界」	美馬牛小学校（美瑛町）	佐々木郁太郎（札幌市）
佳作	「咲き誇る花を見つめて」	札幌市資料館（旧札幌控訴院）	谷口 美江（札幌市）
佳作	「百年記念塔よ、永遠に」	北海道百年記念塔	奥谷 忠浩（南幌町）
佳作	「夜の札幌駅」	札幌駅	廣瀬 大亮（札幌市）
【携帯・スマホ部門】			
賞	題名	対象公共建築	受賞者
特選	「風景の中に佇む記念館」	有島記念館	中村 佳弘（倶知安町）
入選	「桜の絨毯と天文台」	札幌市天文台	藤原 睦（札幌市）
入選	「夕陽を背に」	北海道百年記念塔	久保田 豊（札幌市）
入選	「変わらぬ道」	小樽観光物産プラザ	平尾 聡（札幌市）
奨励賞	「知識欲の秋」	北海道大学総合博物館	桑原 朋子（千歳市）
奨励賞	「reflection」	札幌駅	本間あかり（江別市）
奨励賞	「PMF に会いに行く」	札幌コンサートホール Kitara	井内 祐（札幌市）

●「公共建築の日」2021 フォトコンテスト審査委員会

(敬称略)

委員長	佐藤 雅英	(公社)日本写真家協会会員 NPO 法人北海道を発信する写真家ネットワーク顧問
委員	神谷 剛	国土交通省北海道開発局営繕部長
	竹村 光司	国土交通省北海道開発局営繕部営繕計画課長
	石丸 貴康	北海道建設部建築局建築整備課長
	二宮 力	札幌市都市局建築部建築保全課長

● 審査風景



「公共建築の日」2021 フォトコンテスト総評

審査委員長 ● 佐藤 雅英



「公共建築の日」フォトコンテストは、平成15年に第1回を開催して以来、「建築と人間のかかわり」を主題に各年で関連するテーマを設定し、実施してきた。建築は人に利用され、愛されることによりその価値が高まっていくとの認識にたつてのものである。本来であれば本年の募集もそれにそってテーマ設定がなされるところであるが、昨年来の新型コロナウイルスの感染拡大の事態により人流の抑制などの緊急事態が数次にわたり発令されるなど、社会経済が大きな影響を受けることになった。このため、本年のテーマ設定については人流の抑制などによる影響を最小限に抑えるべく、「建築と自然」を主題に、募集テーマを「公共建築と風景、街並み」とした。人とかかわりの中に存在する建築とは別に、建築の持つ雰囲気、取り巻く情景など自然とかかわりの中に建築が存在することも建築の多様性であると考えた。応募作品の中に、それを表現したより良い作品が必ずあるのではとの期待をもったが、確たる見通しがあったわけではなく手探りで募集を始めることになった。

当初は昨年に比べて応募数も大きく減るのではないかと危惧したが、昨年の応募数を遥かに超える応募があり安堵するとともに、喜びが込み上げてきた。応募いただいた皆様に心より感謝申し上げたい。応募作品のどれもが力作で、それぞれの表現に特徴があり、優劣つけがたい作品ばかりであった。審査委員会の各委員も真摯に審査し、選考作業を行った。その結果、今回の受賞作品は、その中にあっても「光」の濃淡を巧みに活かしたもの、「公共建築」への視点にぶれがないものなどが選考されることになった。詳細については講評をお読みいただきたい。

最後に、新型コロナウイルスを取り巻く状況は予断を許さない状況が続いている。来年こそ、安心して暮らせる日常が訪れ、建築や街中に人々の明るく笑い声がこだまする日がくることを切に念じて総評を書き終えることにしたい。

来年が皆さんにとってより良い1年であることを祈念します。

Profile

1946年稚内市生まれ、札幌在住。(公社)日本写真家協会会員、NPO法人北海道を発信する写真家ネットワーク顧問。国内外の芸術家、文化人、匠の肖像、都市の歴史、建築、文化などを撮り続け、東京コダックフォトサロン、韓国、日本大使館広報文化院、中国魯迅美術館などで数多くの写真展を開催。特に2001年同時多発テロ前後を捉えた『NEW YORK NEW YORK Peace and Love』は話題となる。2000年、現代日本の写真 (ARTBOX international) 日本を代表する写真家110名に選抜される。2014年、パリ日本年日本選抜作家展 (フランス・パリ「モナリザギャラリー」)、2015年、「目で楽しむ音楽展」(札幌芸術の森美術館)、2016年、500m美術館 Vol.18「記憶と記録の札幌」(地下歩道空間)。

デジタルカメラ
部門

秋のウポポイ

長友 逸郎（札幌市）

グランプリ

ウポポイ（民族共生象徴空間）



ウポポイ（民族共生象徴空間：令和2年7月一般公開）を取り巻く四季のうつろいを感じさせる、季節感のある作品になっている。秋のやわらかい陽光の中で沼に佇むチセ（家）を捉え、注ぐ陽光と湖面のコントラストが絶妙であり、優れた作品となった。

携帯・スマホ
部門

風景の中に佇む記念館

中村 佳弘（倶知安町）

特選

有島記念館



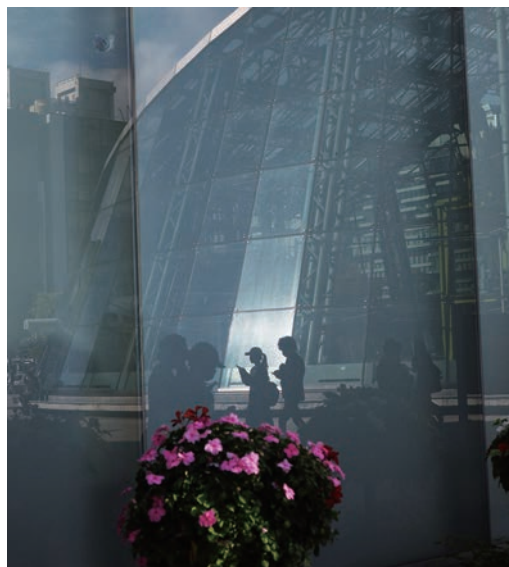
羊蹄山、手前の白亜の有島記念館と池に映りこんだ姿を正面に捉え、左右の樹々にボリューム感を持たせることで全体のバランスをとることに成功している。淡く差し込む光がそれを際立たせる構図の素晴らしさは特筆に値する。

デジタルカメラ 部門	写真に残しておきたい場所
準グランプリ	山内 佳子（札幌市） 北海道百年記念塔



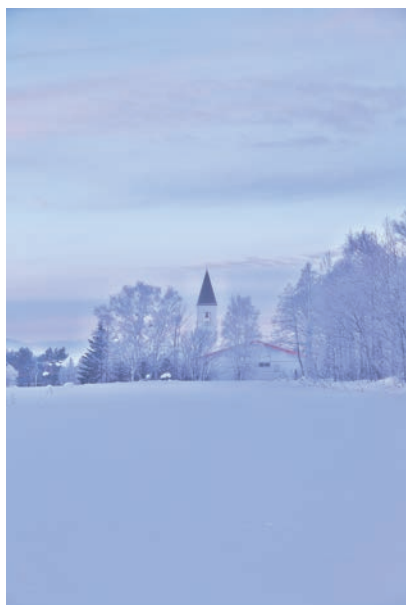
これまで百年記念塔を題材とした多くの応募があったが、この作品のアングルは初めてである。写真を撮っている人物を手前に入れて、それを囲むようにレンガと石の側壁を撮りこんで、百年記念塔と背景の空で構成する優れた構図になっている。空にもう少し余裕があれば一層優れた作品になったと思う。

デジタルカメラ 部門	駅に着いたよ
準グランプリ	朝日 均（札幌市） 札幌駅



手前にある花とガラス面に映る道行く人のシルエットが組み合わせられて非常に美しい光景となっている。それに映るガラスのピラミッドが一段と幻想的な雰囲気を醸し出している。幻想的で駅前にもかかわらず静謐であり、まるで詩の世界のような作品となった。

デジタルカメラ 部門	淡色世界
佳作	佐々木郁太郎（札幌市） 美馬牛小学校（美瑛町）



雪の中に佇む美瑛町の美馬牛小学校を正面に据え、空間全体のトーンをやわらかく白で統一することで冬の北海道が表現されており、心にやさしい、美しい作品である。

デジタルカメラ 部門	咲き誇る花を見つめて
佳作	谷口 美江（札幌市） 札幌市資料館（旧札幌控訴院）



佐藤忠良の彫刻（《若い女の像》）を左に、その右手奥に札幌市資料館を配置し、夕刻と思われる西日の淡い光が注ぐことで逆にそれらが強調される効果を生んでいる。その間に咲き誇るバラを撮りこむことで一層それが強調されている。

デジタルカメラ 部門	百年記念塔よ、永遠に 奥谷 忠浩（南幌町）
佳作	北海道百年記念塔



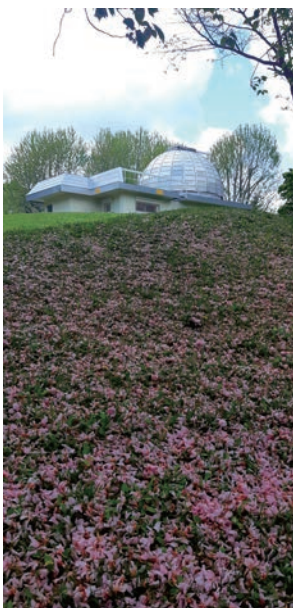
カメラを三脚に固定し、スローシャッターでしか撮れない難しい作品となった。星々の軌跡を背景に浮かび上がる百年記念塔を正面に捉え、構図もしっかりしている。

デジタルカメラ 部門	夜の札幌駅 廣瀬 大亮（札幌市）
佳作	札幌駅



時間帯を選んで撮影したことで、夕暮れ時の札幌駅前に注ぐ陽光をうまく捉えている。札幌駅と駅前通りの表情が生き生きとしている。行きかう車の列が、コロナ禍にあっても日々の営みが続くことを感じさせる。

携帯・スマホ 部門	桜の絨毯と天文台 藤原 睦（札幌市）
入選	札幌市天文台



桜で有名な場所であり、散った桜の花びらを手前に置くことで、札幌市天文台を仰ぎ見る構図になり、逆に天文台の存在が強調されている。曇天の光がその効果を高めている。

携帯・スマホ 部門	夕日を背に 久保田 豊（札幌市）
入選	北海道百年記念塔



雲が早いスピードで手前に流れてくる感じをうまく捉えている。百年記念塔のシルエットと下層部のエントランスの先に夕陽の景色を撮りこむことで、一段と百年記念塔の美しさが際立っている。

携帯・スマホ 部門	変わらぬ道
入選	平尾 聡 (札幌市) 小樽観光物産プラザ



雲間から差し込むやわらかい光が、歴史的建造物である小樽観光物産プラザ（旧小樽倉庫）の重厚感とキメの細かい小樽軟石の質感を浮かび上がらせている。

携帯・スマホ 部門	知識欲の秋
奨励賞	桑原 朋子 (千歳市) 北海道大学総合博物館



秋の紅葉を手前におき、四季のうつろいを感じさせることで、レンガ造りの歴史的建造物である北海道大学総合博物館（旧北海道帝国大学理学部）の重厚な存在と時間の流れを感じさせる相乗的な効果を生んでいる。

携帯・スマホ 部門	reflection
奨励賞	本間 あかり (江別市) 札幌駅



雨上がりの濡れた路面に映る駅舎が、普段とは違う駅の表情を浮かび上がらせ、非日常的な「ファンタスティックな駅」というものを表現している。

携帯・スマホ 部門	PMF に会いに行く
奨励賞	井内 祐 (札幌市) 札幌コンサートホール Kitara



札幌コンサートホール Kitara に向かう市民の後ろ姿を捉え、その後ろ姿と Kitara がうまくマッチしている。Kitara が札幌市民に愛されていることが伝わってくる。

「公共建築の日」2021 フォトコンテスト

受賞作品集

本作品集に掲載された写真、文章等を、一般社団法人公共建築協会ならびに著作権者の承諾なしに
無断で複写またはスキャニング、データベースへの入力、インターネットでの掲載等を行うことを禁じます。

© 2021 一般社団法人公共建築協会